



RAS リモート PC 環境（動的接続誘導） 構築ガイド

20.0

Parallels International GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス
Tel: + 41 52 672 20 30
www.parallels.com/jp

© 2024 Parallels International GmbH. All rights reserved. Parallels および Parallels ロゴは、カナダ、米国またはその他の国における、Parallels International GmbH の商標または登録商標です。

Apple、Safari、iPad、iPhone、Mac、macOS、iPadOS は、Apple Inc.の登録商標です。Google、Chrome、Chrome OS、Chromebook は、Google LLC の登録商標です。

その他のすべての社名、製品名、サービス名、ロゴ、ブランド、またすべての登録商標または未登録商標は、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの所有者の独占的な財産となります。サードパーティに関わるブランド、名称、ロゴ、その他の情報、画像、資料の使用は、それらを推奨することを意味するものではありません。当社は、これらサードパーティに関わる情報、画像、素材、マーク、および他社の名称について所有権を主張するものではありません。特許に関するすべての通知と情報については、<https://www.parallels.com/jp/about/legal/>をご覧ください。

目次

はじめに	4
本ガイドの目的	4
注意事項	4
適用範囲	4
表記規則	4
概要	5
RAS リモート PC 接続とは.....	5
検証環境の構成	6
構築手順	7
事前準備	7
プロバイダーの追加.....	10
ホストプール (VDI) の追加.....	14
仮想デスクトップの公開.....	23

はじめに

本ガイドの目的

本ガイドは、Parallels® Remote Application Server (以降 RAS) の評価を目的に、初めて環境を構築されようとしているお客様や、販売店のエンジニア様に、シンプルなシステム構成で構築を完了し、RAS のリモート アクセスをお試しいただき体験いただくことを目的としております。

RAS 管理者ガイド (日本語) を、弊社 Web サイトに公開しておりますが、公開資料を補足する内容となっております。ぜひ、RAS 製品のシンプルで、かつ操作性の良いリモート アクセスを評価いただければ幸いです。

RAS 管理者ガイドを含むマニュアルの公開ページ
<https://www.parallels.com/jp/products/ras/resources/>

注意事項

- 本ガイドで紹介した仮想ネットワークおよび仮想サーバー等の導入に関しては自己責任での利用をお願いいたします。
- 本ガイドで示す環境構築および運用手順の実行に関しては、所属する組織等のセキュリティポリシーに必ず従ってください。
- 本ガイドに記載されている画面例、URL 等はガイド記載時のものとなるため、画面仕様が実際の画面とは異なることがありますのでご注意ください。
- 本ガイドに記載されている内容は、改善のため予告なしに変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
- 評価の際は、是非、インストールメディアのバージョンを含め、本ガイドの最新バージョンをご使用されることを推奨いたします。

適用範囲

本ガイドは、以下バージョンを対象としています。

- RAS Ver. 20.0

表記規則

本ガイド内の表記は、以下の規則に沿って行われています。

- RAS の画面に表示されるメニュー名/タブ名/プロパティ項目名/値/ボタン名は、[] で囲んで表記しています。
- 可変の値は < > で囲んで表記しています。

概要

本ガイドでは、Parallels® RAS リモート PC 接続環境の構築方法について説明します。

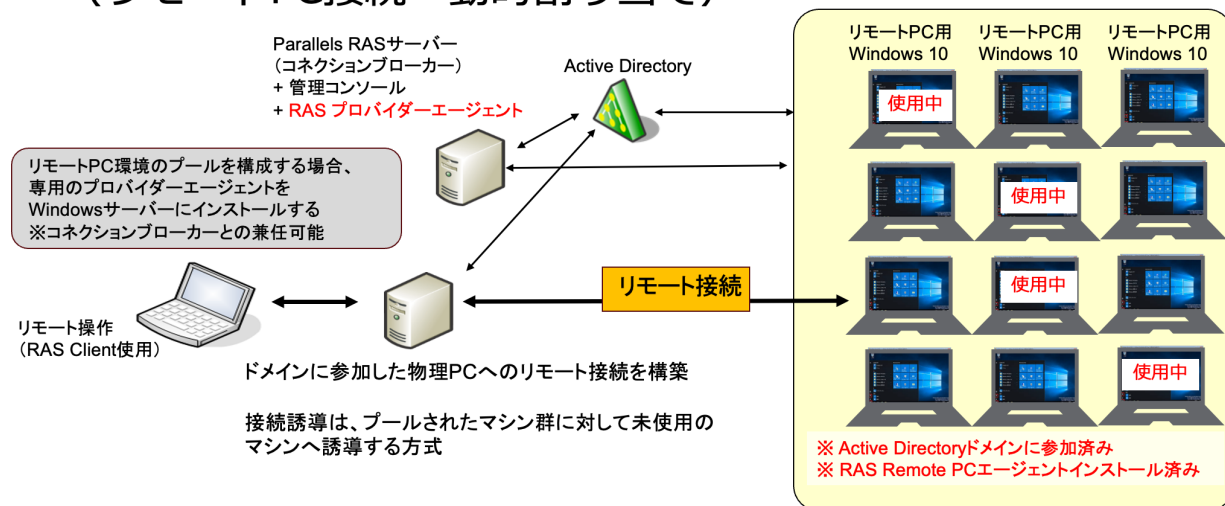
RAS リモート PC 接続とは

Parallels RAS では、リモート接続する接続先として、仮想基盤（＝ハイパーバイザー）上に構築された仮想マシン以外に、ネットワーク越しに物理 PC 環境へリモート接続するリモート PC 接続も選択して利用することができます。

接続誘導は、Parallels RAS コネクションブローカーにより、あらかじめ「静的（パーシステント）」に決められた特定のマシンへ、毎回リモート接続させる定義方法と、プールと呼ぶ論理的な単位を構成し、プール内に物理マシンを格納し、リモート接続を受け付けていない未使用のマシンを探して、コネクションブローカーが接続誘導する「動的（ノンパーシステント）」と呼ぶ定義方法の2種類を選択して設定することができます。

こちらは、「動的（ノンパーシステント）」割り当ての運用イメージを表した図になります。

物理PCマシンへのリモートアクセス環境の構築ガイド (リモートPC接続 動的割り当て)



リモート PC 接続定義は、物理 PC を使用しますので、上記図のように1台ずつの物理 PC の他に、1U サイズのシャーシに複数スロットを用意されたハードウェアに、ブレードタイプの物理マシンを装着されたブレード PC と呼ぶハードウェアに対しても利用することができます。

参考例： アセンテック社様 リモート PC アレイ製品

<https://www.ascentech.co.jp/solution/rpa/rpa.html>

このリモート PC 接続では、仮想基盤（ハイパーバイザー）を使用しません。そのため、リモート接続先である物理 PC マシンの物理リソース（CPU やメモリ、GPU など）をそのまま、接続されたユーザーセッションで利用することができます。接続先に、GPU リソースが実装されたハードウェアがあれば、仮想マシンでは不向きとされていたグラフィック系のアプリケーションなども十分に確保されたリソースで実行ができますので、ユーザーが満足される操作感を提供できます。

検証環境の構成

本ガイドであつかう検証環境について説明します。接続元であるクライアント側のコンポーネントは、Windows OS の物理マシンを使用します。

Parallels RAS 管理コンポーネントをインストールするサーバーを 1 台用意し、リモートの接続先として、Windows 10 マシンを用意します。

項番	マシン	役割	OS
1	RAS Secure Gateway	RAS 環境へのログオン入り口。	Windows Server 2022
2	RAS Connection Broker 兼 RAS Console	RAS 環境への接続誘導、設定の保持。	Windows Server 2022
3	Active Directory	ユーザー認証。マシン登録。	Windows Server 2022
4	接続先リモート PC 用 物理マシン	リモート PC 接続先である物理マシン。	Windows 10
5	クライアント マシン	ユーザーが Parallels Client を使用し、VDI にリモート接続するための物理マシン。	Windows 10 *1

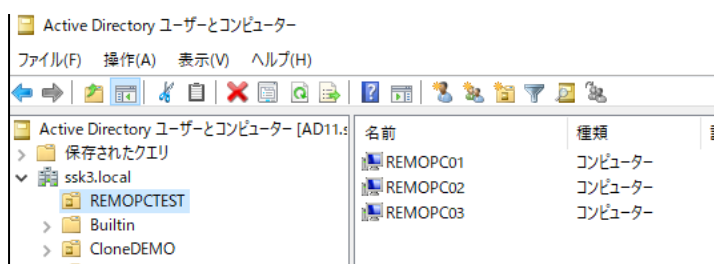
構築手順

RAS を用いて VDI を導入する際の構築手順を説明します。

事前準備

RAS を利用した VDI 環境を構築するためには、以下の環境を準備する必要があります。作業開始前までにご準備をお願いします。

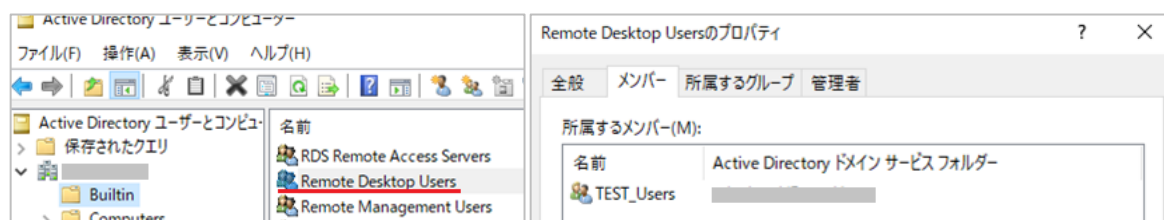
- リモート接続用の Windows 10 マシンを検証に使用する台数分用意する。
- Active Directory ドメインに、今回の検証に使用するリモート接続用 Windows 10 マシンの格納場所である OU を新規に作成する。
- リモート接続用 Windows 10 マシンは、構築済みの Active Directory ドメインに参加し、作成済みの OU に登録する。本ドキュメントでは、3 台の物理マシン（本資料では REMOPC01 ~ REMOPC03）を使用する。



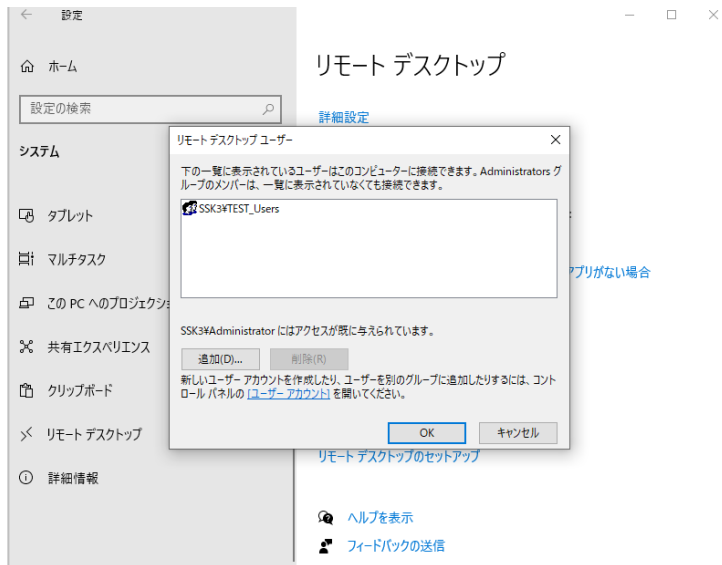
- リモート接続用 Windows 10 マシンは、RAS 環境で使用されるポート番号の通信を許可済みである。

注：RAS 環境で使用されるポートにつきましては、「ファイヤーウォール要件 (<https://kb.parallels.com/en/129097>)」をご参照ください。
本ガイドでは、リモート接続用 Windows 10 用マシンの F/W 設定は、ドメイン ネットワーク内では無効にしています。

- 検証用ユーザー アカウント/ユーザー グループをドメイン コントローラに定義済みである。
- 検証用ユーザー アカウントをドメイン コントローラに構成済みの Remote Desktop Users に追加済みである。



- リモート接続用 Windows 10 マシン用マシンは、検証用ユーザー アカウント/ユーザー グループに対してリモート デスクトップ接続を許可済みである。



注：この設定が無い場合、ユーザー ログオン時に、0X400000E NOT Authorized Remote login が出力されます。

注：リモート デスクトップ接続の許可設定の手順は、<https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/remote/remote-desktop-services/clients/remote-desktop-allow-access> をご参照ください。

- RAS Connection Broker、RAS Console、Secure Gateway コンポーネントを管理コンポーネント用の Windows サーバー マシン（本資料では仮想マシンを使用）へインストール済みである。

注：RAS のインストール手順は、[管理者ガイド「Parallels RAS をインストール」](#) をご参照ください。

- RAS Console に、RAS ライセンスと Secure Gateway サーバーを登録済みである。

注 : RAS 環境を構成するサーバーの設定手順は、「RAS 管理者ガイド」ご参照ください。

RAS 管理者ガイド

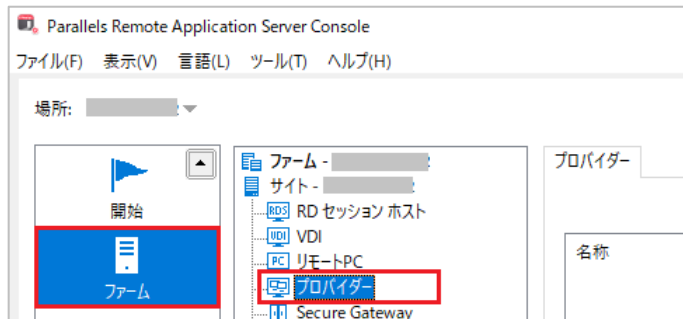
<https://www.parallels.com/jp/products/ras/resources/>

プロバイダーの追加

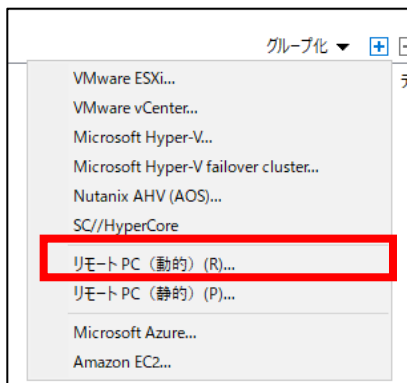
プールされた物理マシンをリモート接続先として定義する場合、Parallels RAS では、仮想基盤（ハイパーバイザー）ベースのプロバイダーや、クラウドベースのプロバイダーではなく、「リモート PC（動的）」「リモート PC（静的）」の 2 種類からプロバイダーを選択します。本ガイドでは、ユーザーが、未使用の任意の物理 PC へ接続する運用形態を定義しますので、「リモート PC（動的）」を選択します。

プロバイダーを追加するには、以下の操作を実行します。

- 6 RAS Console を起動し、[ファーム] > [サイト] > [プロバイダー] の順に遷移します。



- 7 [プロバイダー] タブで [+] ボタンをクリックし、追加するプロバイダーとして [リモート PC（動的）] を選択します。



- 8 「仮想化プロバイダーを追加」ウィザードが表示されます。必要情報を入力して、[次へ] をクリックします。

仮想化プロバイダーを追加 - Remote PC (dynamic)

Parallels®

名称(N): REMOTEPC

説明(S):

タイプ(T): Remote PC (dynamic)

接続性

住所(A): 自動

ユーザー名(U): d

パスワード(P): ●●●●●●●●●●

RAS Agentを展開するための認証情報を管理する: [認証情報を管理する\(M\)...](#)

[詳細設定](#)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル ヘルプ

名称	説明
Name	新しいプロバイダーの名前
説明	任意の説明
ユーザー名	物理マシンが登録されているドメインにログインするためのユーザー名
パスワード	ドメインにログインするためのパスワード

9 プロバイダー追加を進めます。

仮想化プロバイダーを追加 - Remote PC (dynamic)

Parallels®

プロバイダー: REMOTEPC

Agent のステータス: OK

タイプ: Remote PC (dynamic)

バージョン: 20.0 (build 25389) プロトコル バージョン 8

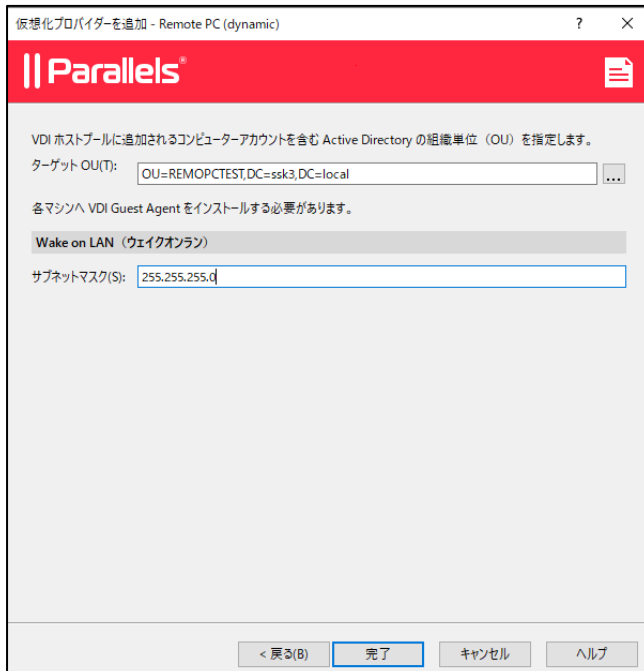
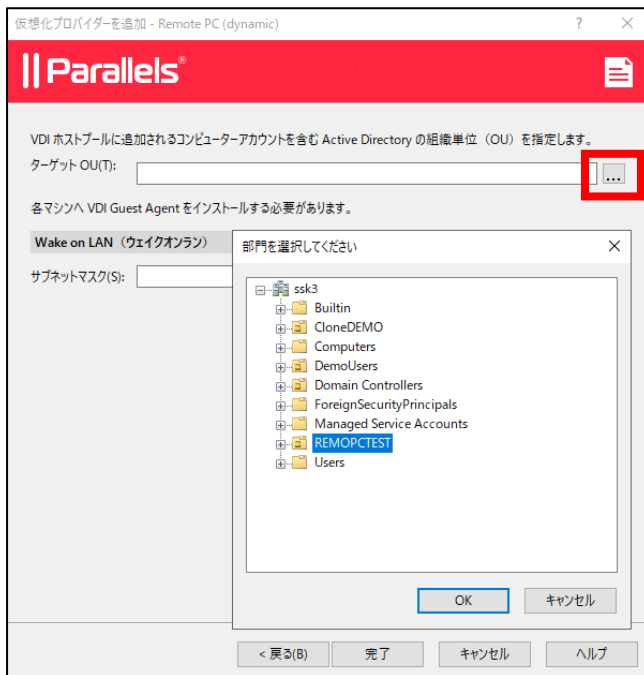
プロバイダーサービス: 30006 ポートで有効化しました

Provider Agent OS: Windows Server 2022 Standard Edition 10.0.20348 (x64) - HvcHyperV

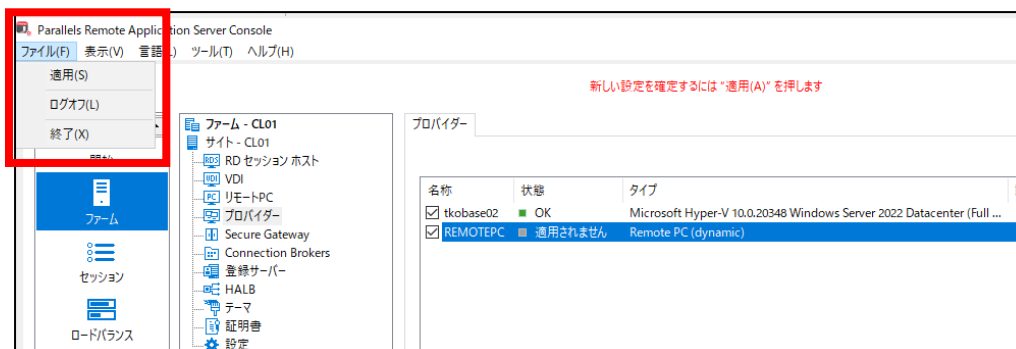
ステータス: RAS VDI Agent は検証されました。資格情報は有効です。

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル ヘルプ

- 10 VDI ホストプールに追加される Active Directory ドメインに登録済みの物理マシンの格納場所 OU を指定します。ターゲット OU 入力欄の右端の参照ボタンをクリックして、該当する Windows10 が存在するネットワークのサブネットマスクも指定します。最後に[完了]ボタンをクリックします。



- 11 コンソール表示に戻り、プロバイダー登録を確認します。この時点では、まだ[適用されません]の状態となります。コンソールから、[ファイル] - [適用]をクリックします。



- 12 [適用]後、作成したプロバイダーの状態が、OK となることを確認します。



ホストプール (接続先 PC) の追加

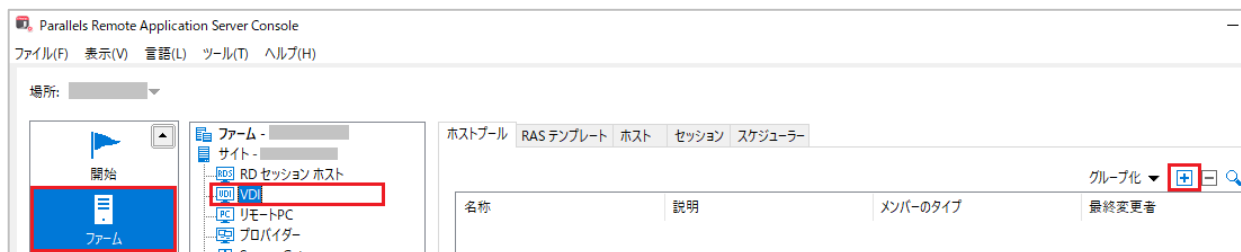
ホストプールの作成をします。物理マシンへ接続誘導をしますが、このドキュメントでは、動的に未使用の物理マシンへ接続誘導するため、定義操作は、[VDI]操作から実施します。

ホストプール (接続先 PC) を追加するには、以下の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [ファーム] > [サイト] > [VDI] に遷移します。

通常、VDI は仮想マシンを意味しますが、リモート PC 動的アクセス制御でも、この定義を使用します。

- 2 [ホストプール] タブで [+] ボタンをクリックします。



- 3 「VDI ホストプールを追加」ウィザードが表示されます。[サイト内のホストプールを有効化] を選択してホストプールを有効化します。必要情報を入力して、[次へ] をクリックします。

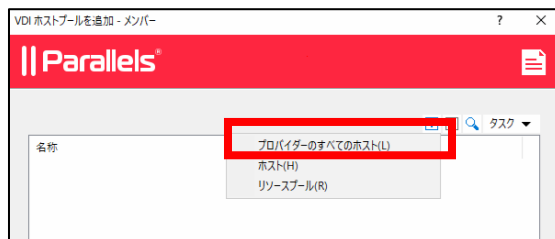


Name	新しいホストプールの名前
説明	任意の説明

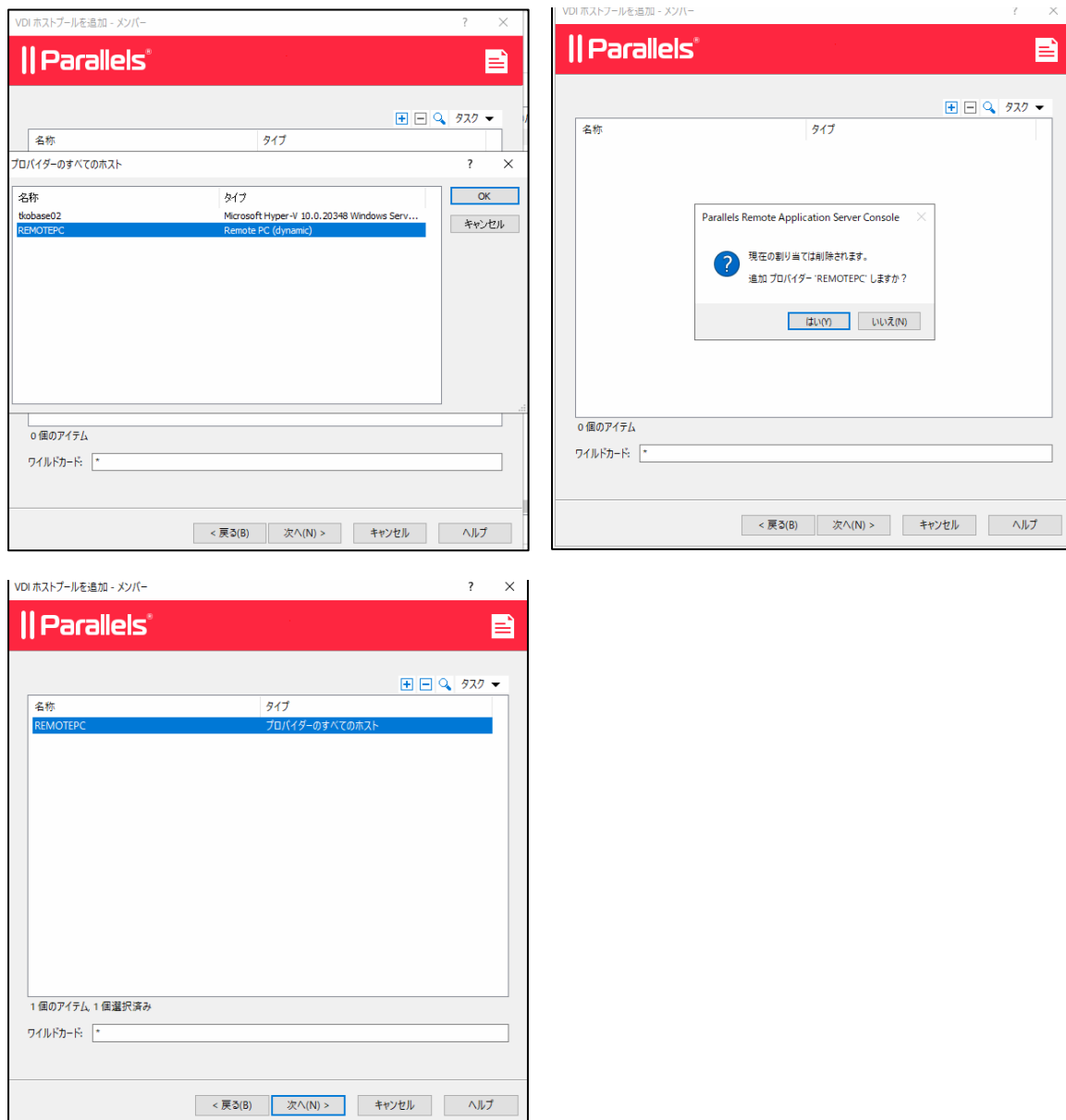
- 4 プロビジョニングの方式を選択します。[スタンドアロン] を選択し、[次へ] をクリックします。



- 5 対象の仮想マシンを選択します。画面上の [+] ボタンをクリックし、選択リストから [プロバイダーのすべてのホスト] を選択します。



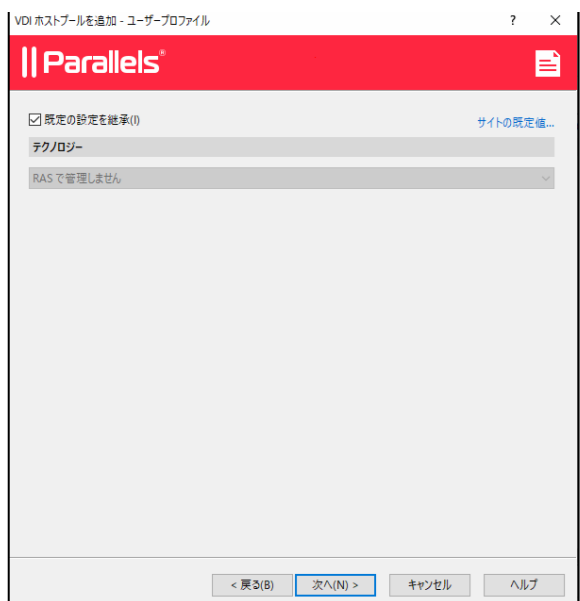
- 6 先の操作で作成した VDI ホストプールの名称を確認して、次へ進みます。



- 7 ホストプールの設定は、[デフォルト設定を継承]を選択して、次へ進みます。



- 8 ユーザープロファイルの設定は、[規定の設定を継承]を選択した状態で、次へ進みます。



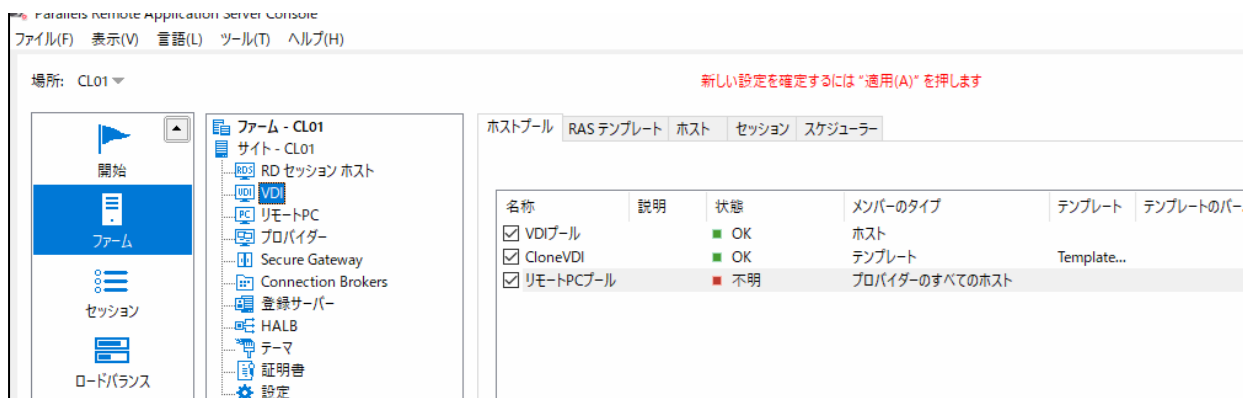
- 9 [最適化を有効化]かつ[自動]を選択した状態で、次へ進みます。



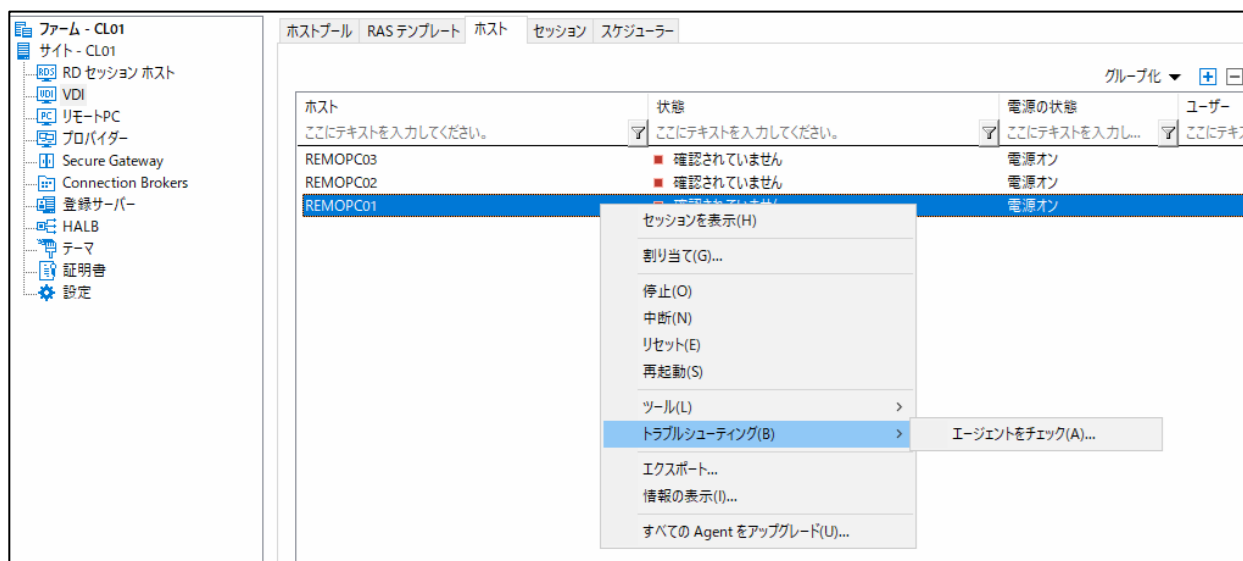
- 10 内容を確認して、完了ボタンをクリックします。



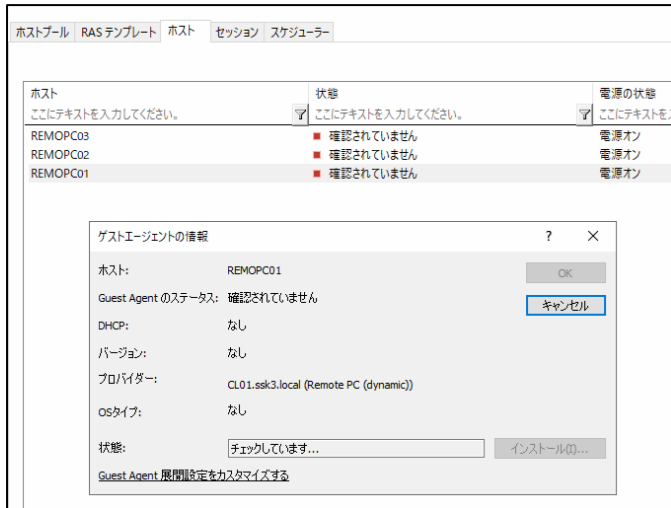
- 11 コンソールメニューに戻り、[適用]をクリックします。



- 12 作成したホストプールを選択します。状態は「要注意」となっていますが、これを選択して、[ホスト]表示に切り替えます。指定済みのドメイン OU に登録済みの物理マシンのリストが表示されます。ホストを選択して、右クリックします。メニューから[トラブルシューティング]を選択し、[エージェントをチェック]を選択します。



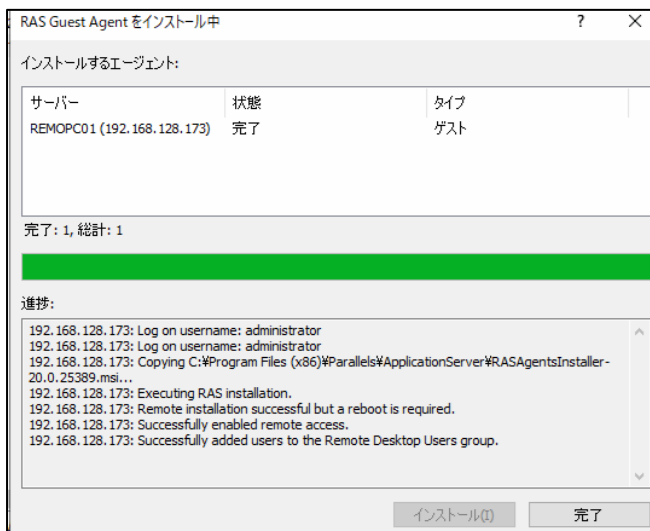
- 13 登録対象の接続先ホストマシンに対して、Parallels RAS ゲストエージェントのインストール有無が自動チェックされます。



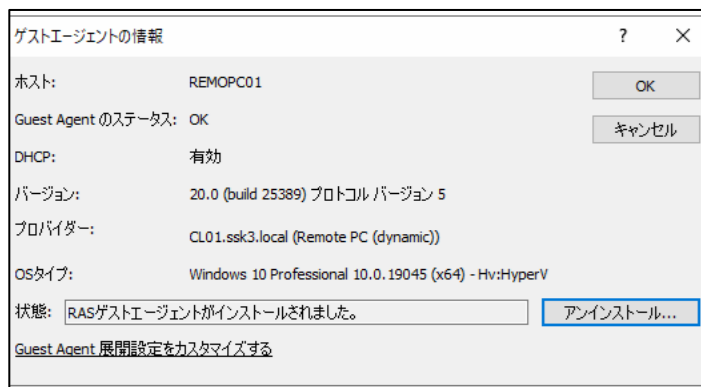
- 14 Parallels RAS ゲストエージェントのインストールを促されます。右端の[インストール]ボタンをクリックして、自動インストールを進めます。



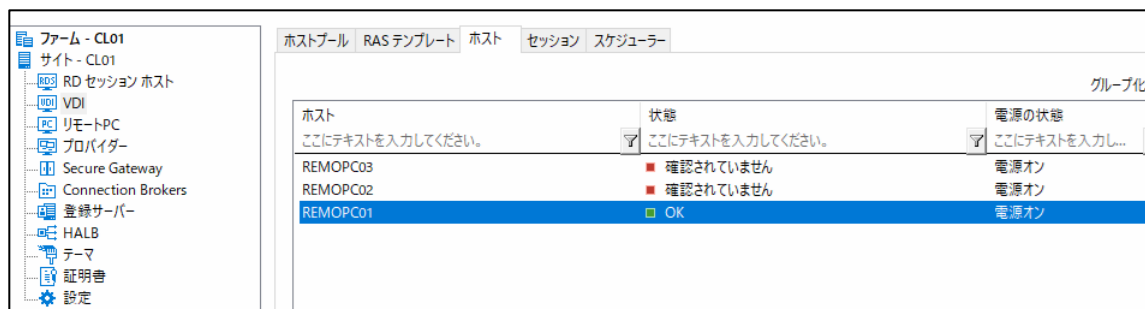
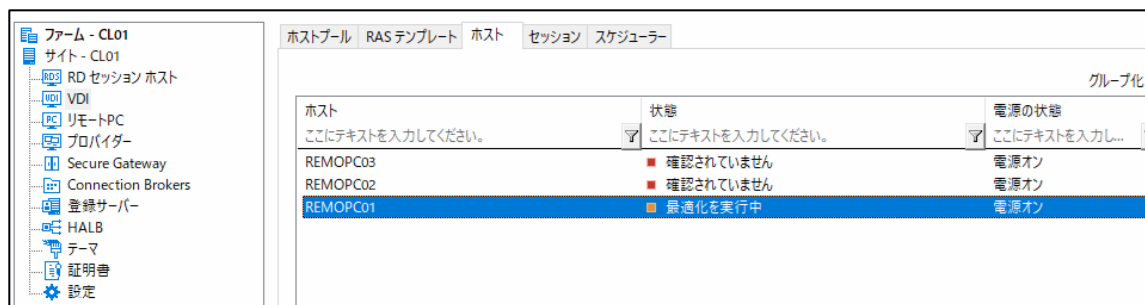
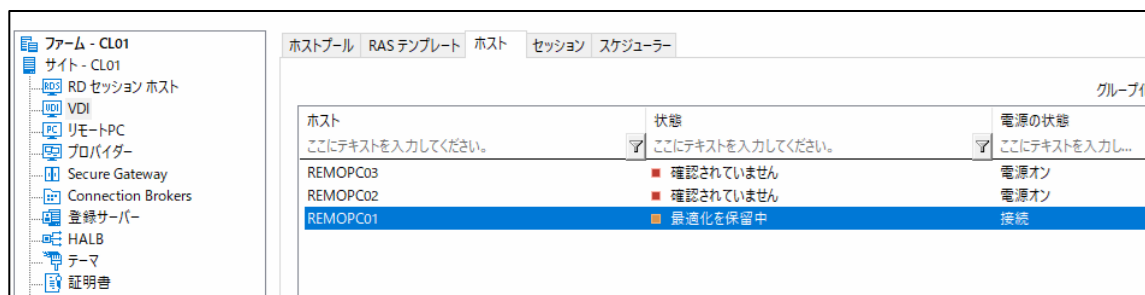
- 15 Parallels RAS ゲストエージェントのインストールが実施されます。インストールが終了しましたら、[完了]をクリックします。



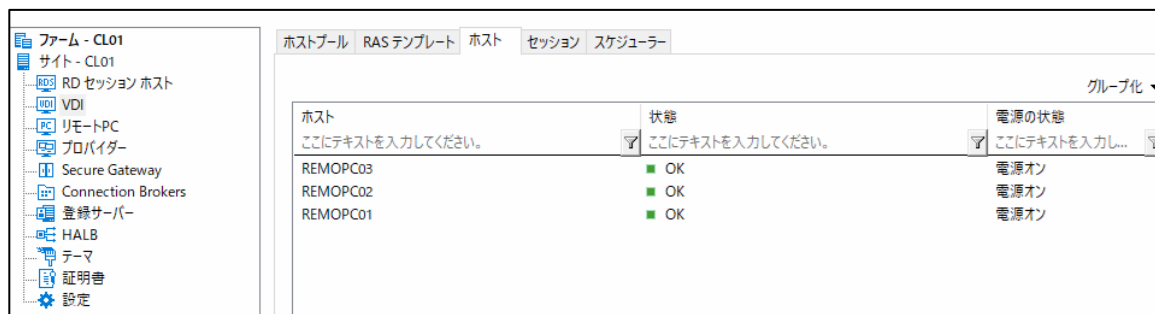
- 16 Parallels RAS ゲストエージェントのインストールが完了したことを確認します。[OK]ボタンをクリックします。



- 17 リモート PC 対象マシンの状態が、最適化の状態から、[OK]に遷移します。
[OK]へ自動遷移しない場合は、ホストマシンを、再起動してから、再確認してください。

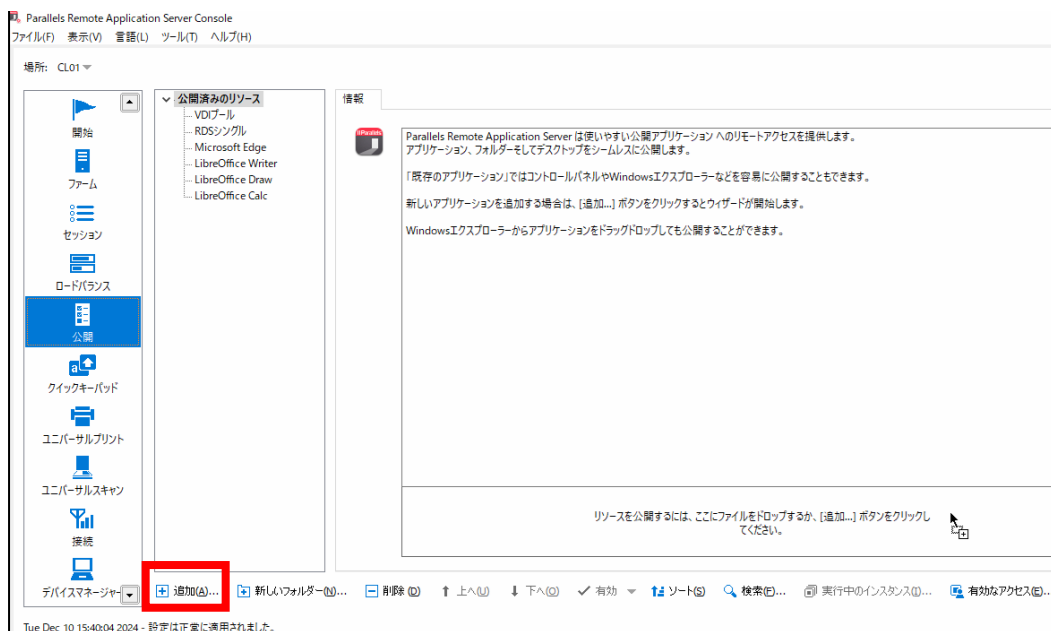


同様の手順で残りの Windows10 についても Parallels RAS ゲストエージェントのインストールを実施します。



仮想デスクトップの公開

- 1 構成した物理 PC を含む VDI プールを、利用ユーザーへ、リモート接続先のリソースを定義することを、[公開] と呼びます。
- 2 管理コンソール メニューに戻り、左側選択リストから、[公開] を選択し、表示を切り替えます。次に、コンソール下部にある、[追加] ボタンをクリックします。



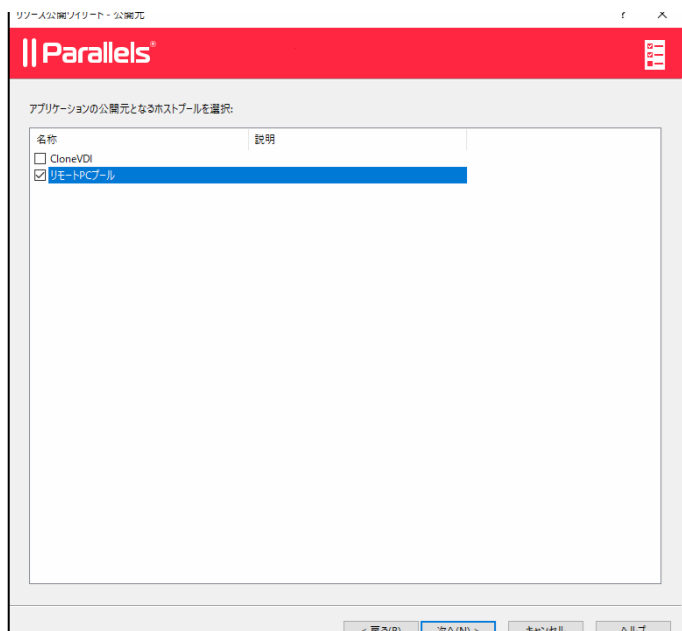
- 3 仮想デスクトップ用マシン (Windows 10) のデスクトップを公開するので、[デスクトップ] を選択します。



- 4 リモートの物理 PC への接続を定義しますが、[仮想デスクトップ]を選択します。



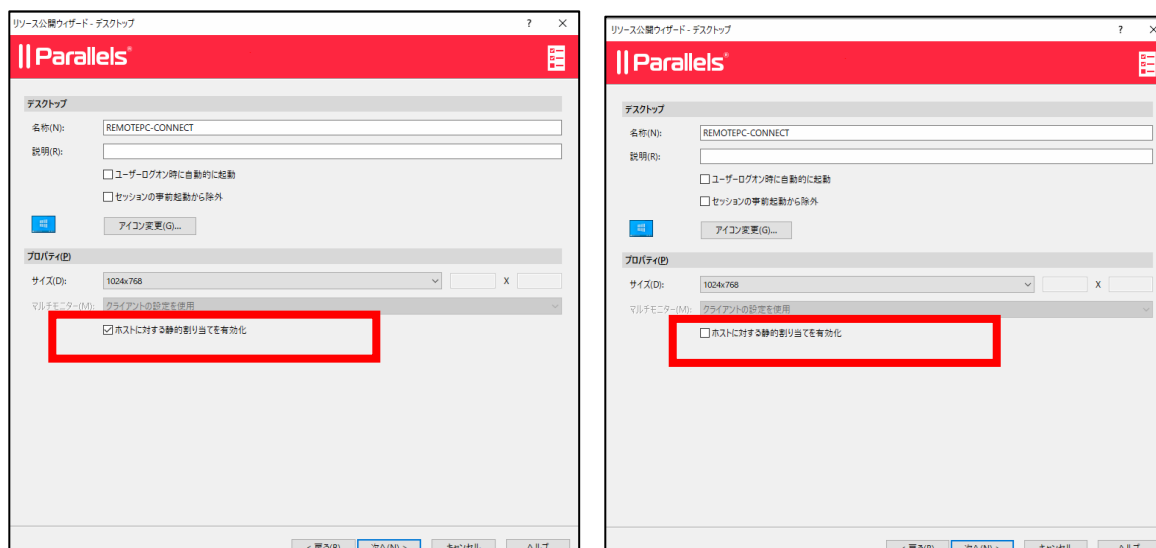
- 5 定義済みのプールを選択して、次へ進みます。



- 6 公開名を入力し、次に、画面サイズを定義します。さらに、[ホストに対する静的割り当てを有効化] のチェックを外します（初期値は入力済み）。

これにより、プールされた仮想マシンの中で、ユーザーがリモート接続中でない、未使用の仮想マシンへログオンユーザーの利用が誘導されます。

使用マシンをユーザーに紐付けする場合は、チェックを入力します。次へ進みます。

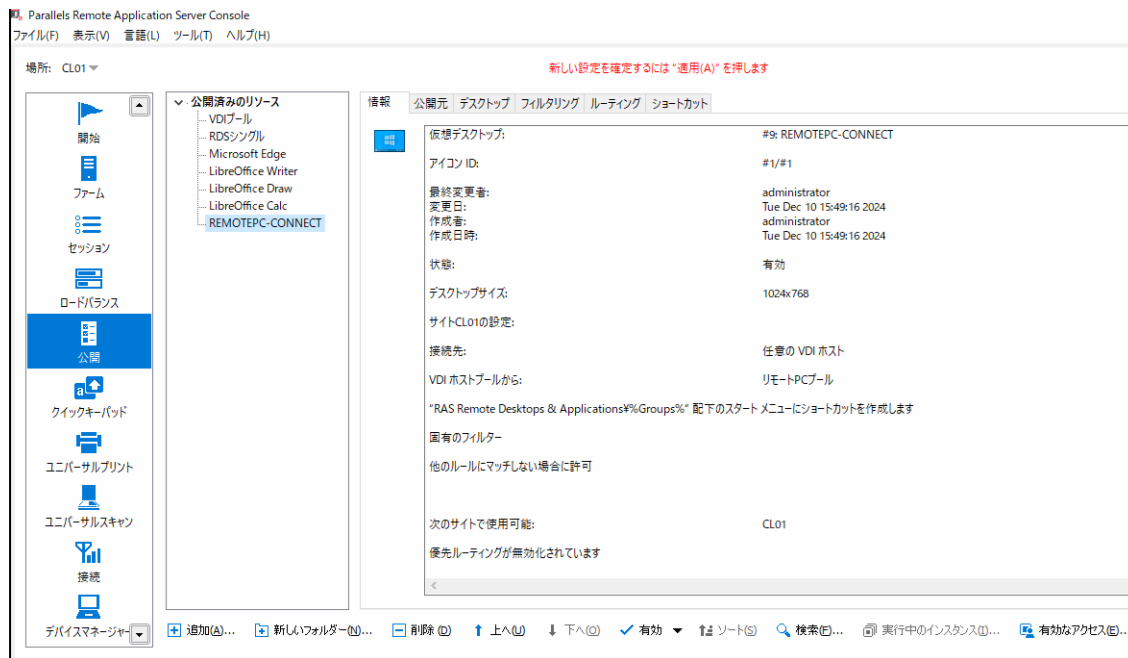


- 7 [有効] を選択して、[完了] ボタンをクリックします。



- 8 管理コンソールメニューに戻り、定義した設定を [適用] します。

[ファイル] > [適用] をクリックします。



- 9 接続検証用のクライアント PC へ操作を移ります。Parallels Client を起動し、ログオンします。公開済みのリソースが表示されることを確認します。

前述までの手順で、作成した、[VDI プール] 定義のアイコンをクリックします。

仮想デスクトップ画面が描画され、リモート操作可能であることを確認します。

